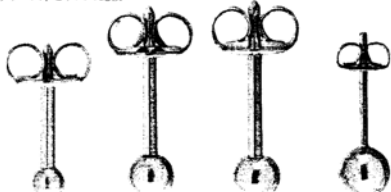


ファーストピアスの比較



医療用ステンレスを純金処理した有効触媒層(耳のロングタイプのもの)に入った部分の裏に「白銀」の薄い膜を有し、人に使用するものではない。

医療用ステンレスを純金処理した有効触媒層(耳のロングタイプのもの)の、主に耳たぶの厚い部分に使用するもの。

医療用ステンレスを純金処理した有効触媒層(耳のロングタイプのもの)の、主に耳たぶの厚い部分に使用するもの。

医療用ステンレスを純金処理した有効触媒層(耳のロングタイプのもの)の、主に耳たぶの厚い部分に使用するもの。

ここにあります。  
金銀アレルギーとは、その金属が溶けて放出するイオンがからだに入り、それを危険な異物と認識した免疫機構が戦闘を開始して、その結果、かゆみや熱、はれた目の症状が現れるもので、見た目には金属は溶けて溶けいように見えませんが、分子レベルの微小オゾン世界では、常に溶けて溶けいようを放出しているのです。  
特に、ニッケルはイオンを放出して、金銀アレルギーを引き起こすことでも有名です。セラミックス

となつてしまつた人の場合でも、医療用ステンレスの表面を純金処理した「アレルギーフリーピアス」を使用すると、穴を完全に塞ぎこめることができます。エタノールイオンをたっぷり放出しない金属として注目されています。  
金銀アレルギーに反応するものとして、純チタニウム、チタン合金やセラミックスです。セラミックスも販売されています。セラミックスピアスは金銀アレルギーを起すことはありませんが、チタ

ピアスの穴をあける道具とアフターケア用ジェル



①ピアス穿孔機、滅菌パックに入っています  
②アフターケア用のジェルと専用の綿棒

ン合金ピアスにはチタン以外の金属が含まれていますから、まったく安全といわけにはいきませんが、また、このほかにも18金ピアスを選んだらステンレスアレルギーで悩むこともないです。  
金銀アレルギーを併発しているのが、診察材料とはわかりませんが、ピアスの材料となる、金や銀、プラチナなどの合金成分をつけた針やピアスに貼つて、かぶれるかどうかをチェックするパッチテストを行います。  
金銀アレルギーがあつたとしても、ピアスが溶けないわけではあつません。強酸と強い金属を使用した場合、ピアスにはつけないようにしてください。先ほども述べたような、セラミックスのものやブ

ラステンレス鋼で処理したピアスをつけてはどうでしょう。  
トラブルを避けて、ピアスを楽しむために、デザインも種類も豊富にわたつたピアスを探してみたいですね。  
①日本人向けの適切なファーストピアス(純チタン処理したロングピアスなど)と消毒剤を用いたピアスケア。  
②金銀アレルギーのテストを受けて、自分の体質に合わせた金属を選んで、ピアスをつける。③化粧品の場合には、はじめてお肌に触れる前に医師の診察を受ける。以上3つのことが大切なポイントです。  
決して自分で穴をあけたら、医師にお願いしたい。お店に寄るにあげない方がいいです。長いピアスとおもひあひする場合には、最初が肝心です。

ピアス皮膚炎

[Dermatitis Pierced Ear]



自分で穴をあけるのは論外だが、勘違いのケアで起こるトラブルも

安易にピアスの穴をあけるのは考えもの  
最近、ピアスが原因の皮膚のトラブルが増えています。20代の女性の3/4がピアスをあけています。若い女性もいれていますが、トラブルが増えるのも当然です。  
その原因として考えられるのは次の3点です。  
①穴を開ける器具や消毒に問題がある  
②ピアスの素材に問題がある。金銀アレルギーを防ぐための知識が欠乏している  
③穴をあける器具が、日本人向けでない場合も  
現在、わが国で販売されているピアスの穴あけ器具ほとんどはアメリカ製で、アメリカ仕のままで市販されています。結果からいうと、これらの穴あけ器具は使用されているファーストピアスは、あまじにも細く、短すぎるのです。ピアスが普及しているアメリカでは、ピアスもこのように穴をあけるのが一般的。そこで使用されるファーストピアスは、子どもの薄い耳たぶに合わせて、細く短くつくられています。ところが、日本の場合は、10代の半ばから20代の初期くらいの人が、一般的なピアス初体験の年齢です。  
穴をあける器具が、日本人向けでない場合も  
現在、わが国で販売されているピアスの穴あけ器具ほとんどはアメリカ製で、アメリカ仕のままで市販されています。結果からいうと、これらの穴あけ器具は使用されているファーストピアスは、あまじにも細く、短すぎるのです。ピアスが普及しているアメリカでは、ピアスもこのように穴をあけるのが一般的。そこで使用されるファーストピアスは、子どもの薄い耳たぶに合わせて、細く短くつくられています。ところが、日本の場合は、10代の半ばから20代の初期くらいの人が、一般的なピアス初体験の年齢です。

とにかく消毒すればよい、というのでも大誤解  
あけた直後の穴は、生傷の状態です。ピアスを外す前に、しっかりと消毒を繰り返すことが大切です。この消毒というところを、消毒と勘違いするところから起るトラブルも少なくありません。アルコールのような消毒液で、1日に何回も耳やピアスに消毒して、いかに早く耳やピアスを治すか、これが一番の近道です。  
最近では、非アルコール系のジェル状の消毒剤が開発され、アフターケア用に売られている医師もいます。ジェル状なので、少量で長時間効果が持続します。  
ケアが薄くて化膿してしまつた

場合、ピアスを外す人もいますよ  
ですが、これは注意。膿は、こぼらすすむと、やがてまた膿が湧きます。多少は膿がもともと出ます。しかし、ピアス用にあけた穴が化膿した状態は、ピアスを外して化膿を治らなければなりません。  
ピアスを外すと、穴の入口がかさぶたで塞がって、膿が外に出にくくなるからです。  
もちろん、ピアスをつけていれば、ピアスがじわじわになって、膿を外に出すことができます。ピアスをつけていても、外しても、ピアスをつけていると、次に述べたように金銀イオンが作用して、アレルギーを引き起こしてしまつてもあります。  
そんな場合の治療に使われるのが、シリコーン樹脂製のリング状のピアスです。化膿した穴に、医療用のシリコーン樹脂製のホチキス状のピアスを挿入して、膿を吸い出してから適切な抗生剤軟膏を塗り、膿が出なくなつてからシリコーン製のピアスをつけ替えています。穴も完全に癒えています。